

科学者委員会（第24期・第11回）議事要旨

1 日 時 平成30年8月22日（水）10時05分～11時45分

2 場 所 日本学術会議 大会議室（2階）

3 出席者

三成美保委員長、武田洋幸副委員長、橋本伸也幹事、米田雅子幹事
（第一部）亀田達也委員、佐藤岩夫委員
（第二部）大杉立委員、平井みどり委員
（第三部）藤井孝藏委員、藤井良一委員
（その他）伊藤公雄委員、岸村顕広委員

4 配布資料

- ・資料1 第8回議事要旨案
- ・資料2-1 9月22日開催学術フォーラム ポスター
- ・資料2-2 学術フォーラム配布資料の確認
- ・資料2-3 「軍事的安全保障研究に関する声明」についてのアンケート
第三次集計結果報告
- ・資料2-4 規則等情報
- ・資料3 特任連携会員の推薦様式について
- ・資料4 分科会報告資料
- ・資料5-1 公開シンポジウム「学術を発展させる法人制度に向けた提言
～公益法人法10周年～」(案)
- ・資料5-2 日本学術会議中部地区会議主催学術講演会「地域をフィールド
とした研究の可能性」
- ・資料5-3 「第16回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム」(案)

5 議題

(1) 前回議事要旨案等について

前回議事要旨案について、提案の通り承認された。

(2) 9月22日開催学術フォーラムについて

三成委員長から学術フォーラムのプログラムについて、佐藤委員から第三次集計結果報告等フォーラム配付資料について説明がなされた。

(三成委員長) 提案されているいくつかの論点についてご意見を頂戴したい。
まず一番目の、第三次集計結果報告をベースに資料として配布することについてはよろしいか。

<異議なし>

その次の2について、基本集計結果に掲載する自由記述については原則として自由記述は掲載しない。しかし、総括的意見のみ匿名処理をしたうえで掲載すること、それに加えて別案でご提示されているように、各設問について数件、5～10件程度を選んで匿名処理を慎重にしたうえで意見の抜粋として掲載してはどうかという提案があった。自由にご意見を頂戴したいが、いかがか。

(A委員) その前にVのところ、36ページの一番下と37ページの下で大学名が出てしまっているところは隠さなければいけない。「弊所では」で始まるところも一部削った方が良いのではないか。

(佐藤委員) 匿名処理はまだ完全ではないので、これから資料を作成する段階で慎重に確認する。最終確定する前に科学者委員会の先生方にご覧いただいて修正を加えたい。

(B委員) 元々アンケートをとる時に、公開に関して相手方に約束したような気がした。もともと設問として公開していいかどうかということをつけるかどうかも議論したと思う。もし出す場合にも、匿名処理する際に、出したところに確認はとらなくてよいか。

(佐藤委員) ご指摘のとおり、アンケートを実施する時に、アンケートの結果は委員会審議の参考とさせていただくほか、報告書あるいはシンポジウムにおいても利用させていただき、その場合は個々の回答がどの機関の回答かはわからないよう匿名化した形で利用させていただくことを明示していた(アンケート依頼文の末尾に明記)。その点についてはご了解いただいて回答いただいている。したがって個々の数字の集計や自由回答についても、A先生がおっしゃったように慎重に扱っていくが、その回答が一体どの大学・研究機関の回答かわからない形であれば公開に差支えないと認識している。

(三成委員長) 論点の3にもかかわるが、最後の大学名を出すこと、これも問題ないか。

(佐藤委員) 回答機関のリストを出すかどうかは明示していなかった。ただ、この種のアンケートで、どの機関が回答してくださったかどうかは、アンケートがどれだけ信頼できるか、回答機関全体との関係でどのような回答傾向なのかを理解する重要な手がかりなので、個々の回答がどの機関の回答かわからない条件の下では、回答機関名のリストを出すことは差支えないというのが私の考え。A先生はいかがか。

(A委員) 匿名であるということをはっきりするのであれば、出しておいたほうが、個々の信頼性という意味ではいいと思う。

(佐藤委員) このメンバーのなかで社会調査について精通しているA先生からご意見を頂戴した。あえて補足すると、このような形で回答機関をださないと、本当にこの調査結果が全国の大学と研究機関の傾向を代表しているのかの信頼性の担保がないとの指摘も招きかねない。極端な場合、我々が勝手に恣意的な調査や分析を行っているという指摘が出ることもあり得ないではないので、そのような意味でも、どのような機関が今回アンケートに協力してくださったの

かについては明示するべきではないか。

（三成委員長）そもそもアンケートを出す時に、どの大学が出すかは明示的にだしているの、その中でどこが回答してくださったかということを出すということになるのかと。お二人からご説明いただいたように、調査の信頼性担保のためにも回答機関を明示するというところでよろしいか。

（B委員）回答したところがどこか推定させないために匿名処理をするということで、国立大学を見てみると、これは全員がだしているということでもいいと思うが、私立と、それから研究開発法人は、分けていただいたために非常に数が少なくなっている。どの研究開発法人がだしているかわかってしまう。そこは相手はどう考えるかにもよる。2-4もおそらく対応して名前がでる。もともとの議論の時にマスコミがコンタクトして迷惑かかることを危惧したので、大丈夫かなという気がする。

（佐藤委員）ご指摘の点は理解出来る。そのことに対応する一つの方法は、基本集計を4つの分類にするとしたが、これを元に戻すというのもあり得る。その場合には、国公立大学、私立大学、そして「その他の研究機関」ということになる。大学共同利用研究機関を独立させたのはB先生のご指摘であり、私はなるほどと思ったので4区分にしたが、3区分にして「その他の研究機関」の回答機関数を増やすことで匿名性を高めるというのにはあり得ると思う。

ただし、その場合には研究機関の特性による特徴的傾向は多少読み取りにくくなる。その点この委員会の中にも多様な立場を代表している方がいるので、委員会の議論にお任せしたい。私としては特にこだわりはない。

（C委員）たしかに回答しないということがわかった時に、その大学に質問がくるとか、そういうことはあり得る。そうすると例えば資料2-3の1ページ目にあるような83機関で調査して何パーセントの回答を得たのか、これだけでも国立大学は多いので十分な精度が期待されると思う。一方その他の研究機関も、少なくなってくると特定されるので、その辺は丸めて何パーセントか。そのくらいの公表でも十分価値はあるかと思う。完全公表することに反対するわけではないが、出てないところもいくつかある。アンケートした大学の意図とすると迷惑かもしれないという気がした。

（佐藤委員）旧帝大では一つの大学が回答していないので、その大学にメディア等から問い合わせがあるかもしれないという危惧は、C先生のおっしゃるとおり。そのことについては配慮すべきかもしれない。回答対象機関と回答機関についてカテゴリーごとに回収率等も示しているのでそれで十分と、学術会議の信頼性をベースに調査結果についての信頼性も担保されていると受けとめてもらえるのであれば、回答機関リストは掲載せず、逆に回答機関の特徴を明確にするという意味で、基本集計は4区分を維持するという選択もあり得る。

（A委員）確かにそういう考え方もある。はっきり明記してあるので、科研費交付金額の多い上位150位までという形で調べればわかることで、主要な大学が入っていることはわかって、そのうちの74%弱が答えているということで、十分に理解は得られるかなと思う。もし出す場合は、回答機関一覧の並び

の順がよくわからない。あいうえお順にするとばらけていいかなと思ったりもする。おっしゃるとおり、調査対象が明記されているので、十分に主要大学がわかると判断されるなら、それも一つの判断かなと思う。

（三成委員長）そうした大学は科研費の基準で上位で選んでいるから調べればわかるが、資料の送付先を書くというのも一つの方法かなと思う。

（佐藤委員）送付先のリストを出すということはあまりないことだが、回答機関名を出さないということの代わりにそれを出すというのは、検討させていただければと思う。回答機関名のリストは出さないということはこちらでご確認いただき、それを前提にどのような対応をするのがこの調査の信頼性の担保にとって重要かという観点から検討させていただきたい。

（三成委員長）今問題になっている4区分は維持するということでよろしいか。
<異議なし>

（三成委員長）それではご提案のとおりでお願いしたい。特徴的な記述と、Vのところも匿名処理したうえで出すという、この辺りの自由記述の扱いについてご意見を下さい。

（A委員）自由記述を出すのであれば、こういう事情だと、「意見の抜粋」をして掲載する際、選択が恣意的、誘導的とならないよう選択のメンバーを増やしても、やはり何かの異議が出てくるのではないかなという思いがある。やるのであれば全てを機関名がわからない形でネット上で紹介するとかいう形でやるというやり方もある。部分的につまむとおそらく色々な声が出てくる。いかなる公正な方法をとったと説明しても批判が出るような気がするので、やるなら全部出すというように考えられた方がいいと個人的には思う。

（三成委員長）他はいかがか。自由記述を全部出すか抜粋を出すか。抜粋した時には説明責任が伴うということ。

（D委員）総括的な意見は出すということでA先生がおっしゃっているのはわかかった。総括的な意見についてはぜひ載せていただきたい。シンポジウムの目的が各研究者それぞれに議論してほしいということであると思うので、ここで書かれていることは参考になることがある。

（三成委員長）Vについては出すことにご同意いただいたこととする。それ以外の設問に対しての、抜粋的な自由記述の体裁ということですが、これについてはいかがか。

（佐藤委員）恣意性の排除という点で、全ての自由記述を掲載するのは考えられるやり方だが、全体として分量が膨大になる。前回配付させていただいた第二次集計報告は自由回答全部入れて91ページになる。さらに二点問題があり、一つは先ほどA先生からのご指摘にあったが匿名処理については、膨大な自由回答全体について細心の注意をしなければならないので、ぜひ各先生の協力をいただきたい。

もう一点テクニカルな点で、自由回答の設問の中では、どのような申し合わせ、方針、規則がありますかという設問が相当数あり、その設問への回答は、本学ではこういう規則を用意していますという回答になっている。これをどうする

のかということになる。規則集のリストを配布するのかどうかとも関係してきそうな気がする。

(E委員) 以前にいただいたやつで見た時に、それぞれの項目について、自由回答で、佐藤先生からお話があったように、自分の大学ではこういう規定を作っている等々と、規則を作っている等々と、あとは考え方。考え方の多くは総括の部分で繰り返されている印象なので、検証してないが、自由記述の前の部分を含めて全部入れるのは、単に同じことを繰り返しているだけという部分がかなり増えるので、Vで相当部分はカバー出来ているのではないかという印象は抱いた。

(三成委員長) それは私も同じような印象は少し持っているが、Vは全部出して、Vで拾いきれなかったものの、特徴的というか、拾いきれなかった重複しないものを各設問に関する自由記述で匿名処理をして載せるのも一つの方法かもしれない。

(A委員) それをやる場合は、すべては何らかの形で見られるようにしないと、どうしても恣意的に選んだのではないかという指摘が出てくる可能性がある。後にHP上で全て匿名処理した形で載せますとアナウンスしてやるならありかなと思う。一部を恣意的に選択したと指摘を受けない形の工夫は、今回かなりセンシティブにやらないと色んな声が出るのではないかと心配。

(三成委員長) それはご指摘のとおりだと思うが他にこの件でご意見は。

(C委員) 私も、それぞれの各項目の自由記述はVにかなり要約されているので、これは全面に出すことと、各項目に関しては出さないということもいいので、逆に言うと選ぶこと自身が恣意的ということ、それで十分、アンケートの主旨は伝わるのではないかと思う。

(佐藤委員) C先生が仰っているのは、最初の原案ということになる。その上でVの総括的な意見以外にも、色々なご意見を自由回答していただいているので、それを活かさないのはややもったいないという気がして、別案も提案したが、その中にA先生がおっしゃるように、どうしてもそこに恣意的、あるいは選択的な要素がはいっている。そのことがもたらす効果は慎重に考えなくてはならない。最終的には恐らく、今後検討していただく最終的な「報告」等の取りまとめの時には、悉皆的なデータを載せていくことになるのだと思う。それに向けて今回は暫定的な学術フォーラムの資料という性格から、いくつかの特徴的な意見を選択した、この委員会の責任で選んだと了解してもらえそうか、あるいはそういうことをすることによって全体として学術フォーラムに対する、この委員会の報告の信頼性が揺らぐということになるのか、ここは慎重に考えていくということだと思う。その点についてご意見が色々分かれるようであれば、当初の原案を維持したいと思う。

(三成委員) いかがか。一番最初の、原案はVの総括的な意見以外は載せない、次は特徴的なものを載せる、もう一つは全部載せる。

(F委員) C先生のご意見に賛成。総括の部分では全部拾うということ、各設問に関するアイテムの中で、総括部分とオーバーラップしないものだけをピッ

クアップするとなると、逆に言うとダブルチェックも人は普通しないので、各設問に対する代表的な意見がこういうものだったという誤解を招く可能性はあるので、総括は全部載せると。あとは載せずに悉皆的なものはあとでホームページ上で載せるという方がよろしいのでは。

（三成委員長）代表的なものとして誤解をされるというご指摘。他にまだご発言されていない委員はいかがか。

（G委員）今の意見に賛成だが、最終的に載せる時というのは、報告の時に、報告書にまとめる時には参考資料として各設問に対する自由記述を全部載せてしまうという、そういうことか。

（佐藤委員）今後委員会でご審議いただければと思うが、2つの考え方がある。A先生がおっしゃるように、このアンケートに対する回答データを余すところなく示すことによって社会に正確な情報を提供するという考え方が一つあり得る。もう一つは、アンケートの自由回答でよくあるが、調査グループ側が選択したものを、代表的な意見を載せるというのもあり得ると思う。私自身は最終的な報告書には、匿名処理の上全ての自由回答を載せた方が良いのではないかと考えている。そのことによって、この調査に対する信頼性が担保されるのではないかと思うが、最終的な報告の形式・内容につきましては引き続きご審議いただきたい。本日は学術フォーラムに配付する資料についてということであれば、先ほどから出ている、当初原案ということで、私自身は異論はないところ。

（G委員）結構だと思うが、今回のフォーラムの時にどういう議論することと絡むと思う。Vの総括的な自由意見を踏まえた議論で十分なのか、それとも個別の自由回答の中にそれを踏まえた議論をすべき内容が含まれているのか、議論する上で何か、こういう意見があるのだということ踏まえた議論が必要であれば、何らかの形で取り上げる必要がある。

（佐藤委員）私の印象を申し上げますと、各設問の自由回答の中にはVの総括的な意見だけには必ずしも収斂しない、それぞれの設問に特徴的な回答もある。そう考えて別案を提案したが、もう一つのやり方としては、この委員会でお認めいただければ、私からアンケートの結果について報告する際に、その中で自由回答についても分析したいと思う。それは報告者である私の責任で、自由回答の中には、これは代表性を持つという意味ではなく、特徴的なこのような意見があったということで論点を提示させていただき、それをパネルディスカッションの素材にさせていただくという方法がある。当初の原案を維持した場合にはそのようなやり方をさせていただければと思う。

（H委員）配付資料があまり膨大にならない方がいいので、各設問に関しては先生の議論の中で伝えられて、最終的な報告の中では全部取り上げるかもしれないが、そういう風にされたほうがいいのではないかと思う。

（I委員）今の賛成で、当日いくらコンサイズするにしても全部みることは難しいので、佐藤先生のプレゼンを中心に議論を呼び込むようにされるのが一番よい。配付資料はリスクのない形でやるのが良いのではないかと思う。

(三成委員長) 今まとまりそうな方向というのは原案どおりで行って、ご報告の中で言及していただくと。報告については、これはまた別途検討することになると思う。そういう方向でご対応いただくということでお願いします。続いて、3の回答機関を出さないということで、4の規則資料は配付しないということだが、別案でリストのみを配付するということが提案されているが、この点についてご意見はいかがか。この規則リストのみ配付するということは資料2-4、これの、例えばURLで公表されているものはリストを配付するということか。

(佐藤委員) 配付する場合には、資料2-4はまだ未整理なので、もう少し整理をしてとなるが、本日の議論の流れでは、先ほど回答機関名リストは出さないということになった。

私が資料2-4を別案として提案した前提には、回答機関のリストは明示することを前提に提案したので、先ほど回答機関名は出さないことになったので、最終的にどうするかはともかくとして、今回の学術フォーラムではこれは資料としては配付しない、リストも配付しないということになるのではないかと理解している。

(三成委員長) 今の説明でよろしいか。回答機関は出さないということで、リストも出さない。ただこの資料は今後、報告を出す時には活用するという可能性もある。活かせる範囲で活かしたい。

(佐藤委員) 一言だけ申し上げると、規則集のような形で、日本全国の大学と研究機関が様々な取り組みをしていることについて、学術会議が資料を収集し、それを科学者コミュニティに対して情報提供すること自体は大変意義があることだろうと思う。今回は慎重な配慮が必要なので、学術フォーラムで急いでやる必要はないと思うが、最終的には何らかの形で、科学者コミュニティに対して情報提供する。これは声明の末尾にある、日本学術会議はこの問題について科学者コミュニティが議論していくことに必要な資料、素材を提供していくことにもかなうのではないかと考えている。

(三成委員長) 今のご指摘のとおりこの資料を出すということ、公表されているものを一覧にすることはとても大事であると思う。

(B委員) 機構の中でやる時にずいぶん議論したが、規定を作っても内部だけで抑えている場合、それがあかないかということがわかることによって、隠しているわけではないけれど、色々なところから調査が入ってくる。元々オープンになっているところは覚悟しているのでいいと思うが、不可とか限定というところの名前を載せること自体が、出した方からすると、そういうつもりはなかったと言われるのではないか。

(佐藤委員) ご指摘のとおり。このリストを学術フォーラムの資料として、あるいは最終的に出すという時にも、公開の可否が否になっているところ、つまり内部資料にとどめているところは学術会議としても公開すべきではないという前提で議論している。URLを含めて公開されている規則も相当程度あるので、そのこと自体の意味も大きいのではないかとと思う。

(三成委員長) ウェブページで公表されているものについてもリストをあげると、回答したところが非常に特定されるということになるか。

(佐藤委員) 学術会議、この委員会なり事務局が独自に全国の大学のホームページを探索して、このような資料があったということであれば、回答機関の同意を得ずに公表することも可能だが、このニュースソースは、データソースはあくまで回答の中にあったものとなるので、それを隠して、にもかかわらず、現時点で公表することについては慎重な考慮が必要なのではないかと思う。最終的には先ほども申し上げたとおり、ホームページで公開されているものについては情報として提供したいと思うが、この点について事務局と話していたのは、そのような形でリストなり規則集にまとめて公開して良いかについて、もう一度回答機関の承諾を得る、その手続きを踏もうかとも考えている。学術フォーラムまでにはそれはできないので、最終報告でどうするかという、そのときの判断になるのではないか。

(三成委員長) いずれは公表されているリストを学術会議の軍事的安全保障のページで、相手先の同意を得た上でリンクを貼るというのはあり得るかと思うが、学術フォーラムまでにはその手続きは間に合わないので、今回は回答機関名を公表しないということと深く関連する問題なので、規則についても公表しない。資料としてあげないということによろしいか。

<異議なし>

(三成委員長) Vの、資料は別途用意するということが、事務局、これはいつまでに資料の提供を受ければ印刷とか準備が出来るのか。

(事務局) 量によるが1週間ぐらい前までにあれば可能。

(三成委員長) 報告は3つの大学機関と、上の挨拶・報告。そうしたら、関連の報告の方には、1週間前ということで事務局の方からアナウンスをして資料の準備をしていただきたい。

次に、今後の検討課題。これはアンケート全体の問題。最初の主旨とも絡む。今回大学研究機関についてアンケートを行った。ただ、学協会に対するアンケートも残っており、これは10月以降行う。調査の仕方をアンケートにするのか、ヒアリングにするのかは大学とは事情が違うので、最も効果的な方法を選ぶ必要があると考えている。その上で、最終報告は、ぜひ何らかの報告をまとめたい。提言という形にはならないので報告ということになる。大学研究機関のアンケート調査だけで行うのか、学協会を含めて行うのか。学協会のヒアリング調査を待つと報告を出すのは来年でもひょっとしたら無理かもしれない。かなり遅れてしまう。学協会の問題を、それはまた別途準備するということが、大学研究機関のアンケートだけでもかなりのボリュームがあるので、これを第一次報告として、学術フォーラムの後準備をして出すのも一つの方法ではないかと考える。出し方、2つに分けて出すということと、その場合には今年度から来年度の初めくらい。準備としては出来るか。

(佐藤委員) アンケートを実施した場合には、あまり時間をおかずに最終報告までまとめるということは調査の実施機関としても、回答者に対しても望まし

いことだと思うので、学協会の調査とは別に今回のアンケートを報告にまとめるといことはあり得る。その場合には、恐縮だが一人では大変なので、委員の先生方には分担して作業をお願いしたい。

(三成委員長) いかがか。

(G委員) 私もそれでよろしいと思うが、今回のフォーラムの結果をどう盛り込むのか盛り込まないのか、アンケートはアンケートで独立してやるというなら、盛り込む必要はないという意見もちろんあるが、せっかくこういうフォーラムを開催して、色々な意見が出て、学会議として議論すべきポイントが絞られるのかわからないが、色々な意見が出ると思う。そういうところまで参考資料かなんかにして、せっかくだから絡めたものにするのがいい気がする。

(三成委員長) 今回の学会フォーラムは学会の動向に掲載するというので、枠をとっていただいているが、A先生からこの辺りをご説明いただきたい。

(A委員) 学会の動向の場合は編集委員会で最近は決めるが、議論はしているが最終的には企画を出していただいて、その企画を編集委員会で議論したうえで受けるという流れになる。これは個人的な意見だが、今回のフォーラムは、登壇者の方に書いていただくのはいいと思うが、外部の声みたいなものが、学会の動向では一つ二つ入った方が、フォーラムの中ではなくて外国の研究者の例とか、そういうものが入るとバランスがとれるかなという気がしている。

(三成委員長) 企画書を出して最短で掲載される時期はいつ頃になるのか。

(A委員) 来年になる。今のところ2月までだいたいの流れが出来ているので、3月、4月頃になると思う。9月のフォーラムなので、大体そんな流れくらいかな、3月くらいかなと思う。

(三成委員長) 学会の動向として一つは出ることを前提として報告をどうまとめていくかということになるが、G先生からご提案があったように、学会フォーラムで出た意見等々を報告の中にどう取り込むか。取り込むのかとりこまないのかについて、報告の性格をかなり決定することになるが、ご意見は。一つの方法としては、報告はアンケート結果だけをきちんとまとめて、客観的な分析するという形のまとめ方も一つあるし、アンケート結果ベースに少しコメントをつけるのも一つの在り方かと思う。

(B委員) 先ほどG先生が仰ったが、Vの自由記述を見ると、色々なご質問、ご意見がある。そもそも軍事的安全保障の研究とはなにかとか、学会議にもう少し具体的な指針出して欲しいとあるが、非常に重要なポイントで、恐らくフォーラムでも数値的な解析だけではなくて、議論されると思う。今後これをどういう風に発展させるかという、そういうところまで、ある程度踏み込んでいかないと混乱も生じると思うので、ぜひフォーラムでもとりあげて欲しいし、出来れば動向の中でも、総合的に書くようなところで議論をやっていただけると、大学側としてはいいんじゃないかと思う。

(三成委員長) 佐藤先生どうでしょうか。

(佐藤委員) 非常に重要かつ微妙な論点だと思う。重要な問題あるいは論点があってそれについて議論していくことのは重要だと思う。課題や論点を学会

議として改めてどうけとめるかについては学術会議で共通理解が出来ていないと思う。本格的に種々の論点について議論を深めていくのであれば科学者委員会の体制で十分なのか、場合により別途課題別を立ち上げかということにもなるかと思う。私の現時点での直観的な意見では、学術フォーラムについてはアンケートに記載されていた問題について、パネルディスカッションや、あるいはフロアに開いたディスカッションで議論すべきだと思う。あるいは議論をみて科学者コミュニティ全体として議論を深めていくということもあろうかと思う。それを直ちにこの委員会で引き取って報告の中に入れていくのは適切なのか、あるいは可能なのかについては慎重な検討が必要という気がする。そういう意味では、報告は、アンケートについてはアンケートそれ自体として正確なデータを提供する。それと別途学術フォーラムの記録については、学術の動向か、あるいは別の形で記録としてまとめるという形がいいのではないかと考えている。

(三成委員長) 今ご意見があったように、報告に重要な論点を入れると報告の域を超えることとなる。出来るだけ早めに出す報告は、データを中心に客観的な分析に留め、それ以外の学術フォーラムでも出されるであろう重要な論点について検討するという場合は、学協会のヒアリング等々も聞いた上で、科学者委員会としてまとめることが出来れば、その範囲でのある種の提言という形でまとめることが出来るかもしれないし、もっと大がかりな議論をすることとなると、今から課題別委員会を立てるのは厳しいと思うが、別途考える方法はあるのかなと思う。今回の報告においては、データをベースにしたまとめ方ということで、大きな議論については、学協会のアンケートを待つという形で、もう少し検討するというところでよろしいか。

<異議なし>

(三成委員長) その時報告の中で、自由記述や規則集どう生かすかについては、これはまた別途、今後9月22日にも会議があり、その後もあるので別途議論したいと思う。学術フォーラムおよび今後の報告の方向性については以上にしたいが。

(E委員) 学術会議の運営の在り方について、先ほど佐藤先生よりフロアに開いたと仰られたが、この会議の性格をどうとらえるかに関係すると思うが、アンケートの結果を基にして学術会議の取組を伝えるということか、それとも社会との対話ということを観点に入れているのかということによってずいぶん運営の仕方が変わる。フロアに開くかどうかはひとつ考え方として確認しておかないといけないことだろうというように思う。事柄の性格からいうと、様々なお立場の方々が来るときに滔々と持論を述べる方もいると思われる。それを封じるわけにはいかないが、当然運営上の秩序あるあり方も考えないといけないときにどうすればいいのかということで、実務的なことをここでいちいち決めていく必要はないと思うが基本的な考え方については、やはりここで方針を出していただかないと当日混乱であろうと思われる。どの程度の発言まで、時間的に認めるのかというようなことについてご確認いただければと思っている。

(三成委員長) 進行について、報告、それから取組の紹介については、その都度の質疑は設けないということ。最後のパネルディスカッションの間に10分休憩があるので、その時に質問用紙を出してもらってパネルディスカッションに活かすのか、この辺り司会進行としてはどのようにお考えか。

(佐藤委員) 声明に先立って、昨年2月に学術フォーラムを開いたときにも、最後の30分ほど、フロアからの意見を求めた。それは議論というよりも、軍事的安全保障研究に関する様々な意見を聴取するという性格であった。今回の学術フォーラムは、繰り返し述べているように、声明から1年経ってその声明が大学等の研究機関にどのように受け止められているのかということを中心に構成することになる。そのことに関わって、例えば大学等の研究機関でフロアからでも発言したいということがあれば、それはむしろ望ましいことであると思う。それに関連して様々な関係機関の方が発言する時に、この人は許す、この人は許さないということにはならない。したがって、パネルディスカッションの最後の30分程度フロアに対して意見を求めると。逐一それに対して応答していくよりも、社会の、あるいは科学者コミュニティの様々な意見を聴取するというスタンスであれば、ありうると思う。その場合には当然、時間は公共財であり特定の発言者が独占することは許されない。適当な時間を超える場合には司会の権限で適切に議論をコントロールしていくことになると思う。それをパネルディスカッションの中で私からするのか、あるいは総合司会の橋本先生にお願いするのか、ここは考えていなかったが、全体のイメージとしてはパネルディスカッションの最後の部分、時間の許す限りで適切な形でフロアの発言を共有するということはあり得る。そのことについてご意見を聴き、そういう方向になるかどうかによって、その先の具体的な手順を検討したい。

(三成委員長) 今回パネルディスカッションは1時間半、かなり時間をとっているのだから、最初1時間をパネラーの方で議論、そして30分をフロアに開くというご提案。質問用紙は準備する必要があるか。

(佐藤委員) 質問用紙を集めると、逆に、提出した方全員に発言の機会を提供しなければならないとか、別の論点が生じるので、30分になるかはわからないが、パネルディスカッションの進行によるが、その場で自由に発言していただく、時間になれば終了するという形ではないか。

(三成委員長) 質問用紙はなしということか。

(佐藤委員) いかがか。逆に質問用紙を出していただくというのは。

(C委員) 質疑応答ではなく、意見をうかがうということ。質問用紙は必ず答えないといけない。皆さんの意見を伺いたいということで皆さんに話してもらうということで終わるという立場でよい。ディスカッションして解決する問題でもないこともたくさんある。意見伺うということではいいのでは。

(三成委員長) 不規則発言とか、時間が長いような場合にはあらかじめ例えば質問を1分とか3分とか、ご意見を1分とか3分とかいう形で区切るとか、あらかじめ司会の方から、このあたりはご対応いただいたらいいかと思う。基本的にパネルディスカッションの一時間半の司会・進行は佐藤先生にお願いする

というようにしたいと思う。

(佐藤委員) 検討させていただき、適宜橋本先生とも相談したい。基本的な点の確認だが、議論ではなく、様々なお立場からのご意見を聞く、発言の機会を提供すると、そういうことで考えたい。

(三成委員長) 最後の30分はお二人で司会、あるいは交代していただくというようなこともあり得ると思う。

(G委員) 結構だと思うが、人によっては、もちろん色々な意見を言う方がいる。学術会議としての見解を求められる場合もあるが、そういう場合に佐藤先生、橋本先生の立場で答えられるかということ、なかなか難しい微妙な問題もあるかと思う。山極会長もずっとおられるのか。そうすると最終的には山極会長の見解を表明することも必要になるかもしれないという、その辺の腹積もりも。こちらとしては答えるか答えないか、答えるとしてもどう答えるのか。今後検討していくという話をされるのかも含めて、腹積もりが必要だと思う。

(三成委員長) 山極先生の位置づけは、会長挨拶を15分多めにとっており、ここで色々なことはお話いただく予定。最初パネルディスカッションにも、ご登壇いただく予定だったが、会長というお立場で、それ以外にも色々な肩書もっておられる方なので、ちょっとした発言の言葉じりをとらえられて、マスコミに変な形で伝わるという恐れもあるので、今回パネルディスカッションからは外れる形でプログラムを組んでいる。会長にお答えいただいた方がいいという問題について、司会の方からそれを振るというのは、それはその都度ご判断。内容によると思うので、常に振るというより、これは引き取って今後議論するといった回答の仕方がいいかもしれないが、それは司会にお任せしたい。

(佐藤委員) 司会にお任せいただければと思うが、確認だが、新たな論点について、日本学術会議としての回答を出来る人は誰もいない。会長含めていないということ。この問題についての学術会議の到達点は声明、それに関連する報告なので、それについて説明をするということはあるが、新たな論点について日本学術会議を代表してこの時点で回答することは誰もできないという前提で臨みたい。そういう問題については、必要ならば、まさに委員会で議論していくということになるかと思う。

(橋本幹事) 私も同じことを考えていて、何か新しく一つ議論の根っこを進める性格のものではないというのが今回のことと思うので、ご意見は伺うが、しかしそのことと今この時点でお答えすることとは違うというのは会議の性格としてきっちりと確認をしておきたいと思っている。

(I委員) 当日参加者にアンケートするのか。

(三成委員長) アンケートは通常やっているのでしたい。

(3) 特任連携会員の推薦様式について

三成委員長から資料3に沿って説明がなされた。

説明概要

- ・特任連携会員の推薦様式について、よりわかりやすくするために修正を行

いたい。(①～④の項目を書いてもらう、ということをも明記)

特段意見はなく、提案の通り承認された。

(4) 研究評価に関するWGについて

三成委員長から説明がなされた。

説明概要

- ・研究評価に関するWGについて、前回委員会で提案したところだが、メンバーについては最小限とすることとしたい。各部から1名ずつ（一部：三成委員長、二部：武田副委員長、三部：藤井（良）委員）を考えている。
- ・WGで検討したことについて、次回以降の科学者委員会で提案していきたいと考えている。

意見交換

- ・WGに若手メンバーを入れるべきかどうかはわからないが、是非若手の声を反映していただきたい。
→WGは準備会合という扱いであり、WGでの検討後、分科会を立ち上げる可能性もあり、その際には若手メンバーにも参加してもらいたいと考えている。WGでの検討状況については、随時委員会に報告予定である。

提案の通り、承認された。

(5) 各分科会からの報告

(男女共同参画分科会)

- ・前回委員会以降、分科会は開催されていない。
- ・7月27日にシンポジウムを開催した。講堂ではなく、大会議室を使用し、対話形式で行った。若手アカデミーからも参加いただき、濃密な議論ができた。対話型のシンポジウムも非常に効果的である、という1つのモデルになったと考えている。
- ・次回は8月30日に開催予定。また、10月に女性差別についてのシンポジウムも開催したいと考えている。

(学術体制分科会)

- ・前回は報告したところだが、6月6日に第3回を開催。
- ・山極会長からのヒアリングを実施した。
- ・次回は9月7日に開催予定。ドイツにおける学術研究と施策の事情に関して話題提供をしてもらう。

(学協会連携分科会)

- ・ 7月25日に第3回を開催。
- ・ 学協会法人化問題検討小委員会企画のシンポジウムや提言案の作成などについては、早めに成果を出すことが予定されている。
- ・ アンケートについては、男女共同参画分科会と合同で行うことを検討している。(男女共同参画分科会の下に小分科会を設置することを検討中)

(研究計画・研究資金検討分科会)

- ・ 第4回・第5回・第6回を開催。
- ・ マスタープランの策定方針についてのアンケートについて、処理ととりまとめ方針について検討した。また、第5回は文科省の作業部会との合同会議として開催した。第6回では、策定方針の骨子案が作成され、各部の夏季部会で意見聴取を行った。
- ・ 8月23日に第7回を予定しており、意見を踏まえ策定方針の改定を行う。10・11月に向けて公表していきたいと考えている。

(学術と教育分科会)

- ・ 前回委員会以降、分科会は開催されていない。
- ・ 地方大学の振興と若者の就業に関する法律関係で、第一部の分科会と合同でヒアリング・意見交換を行った。
- ・ 様々な団体から地方大学の再編・縮小・統合等に関わる文書が出されている。この問題について、第一部の分科会でも、学術と教育分科会でも、きちんととらえていきたい。
- ・ 次回は9月11日に開催予定。科学技術政策についての総括となるような報告をしてもらう予定である。併せて上のような点にも触れたいと考えている。

(ゲノム編集技術に関する分科会)

- ・ 7月2日に第1回を開催。
- ・ 役員には、委員長に武田委員、副委員長に高山委員、幹事に阿久津委員がそれぞれ選出された。
- ・ 第2回までは委員間の情報共有をメインに考えている。
- ・ 次回は9月19日に開催予定。
- ・ また、11月に行われる第1回ヒトの遺伝子編集技術に関する国際サミットに石井委員と阿久津委員に参加してもらい、情報収集等をしてもらうことを検討している。

(6) その他

資料5-1～5-3にあるシンポジウムの開催及び後援について、了承された。

次回の会議開催は9月22日（土）午前中を予定している。

以上